

## 4. 応急給水

- ①給水車による応急給水
- ②拠点給水所の立ち上げ
- ③災害拠点医療機関への優先給水



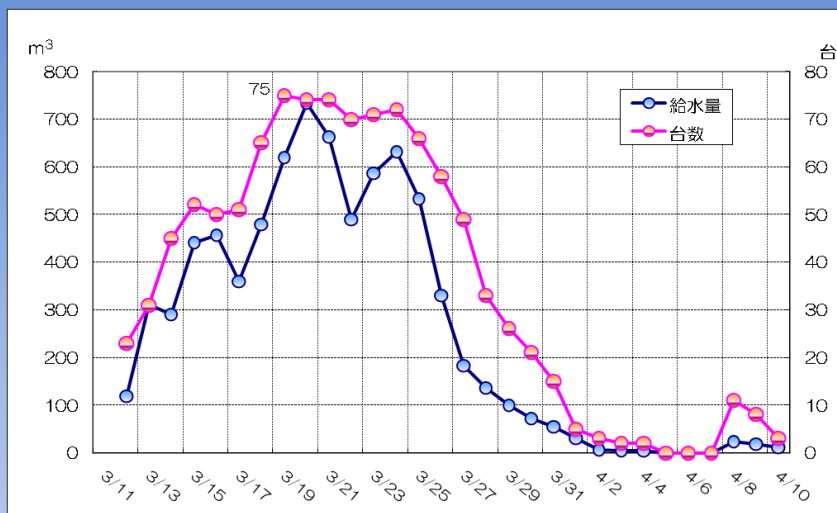
## ①給水車による応急給水状況

各事業体と民間業者を合わせて一日最大で75台が給水活動にあたり、3月31日まで実施した。

**(延べ1,055台、約2,800人)**



## 応急給水活動状況の推移



## ②拠点給水所の立ち上げ

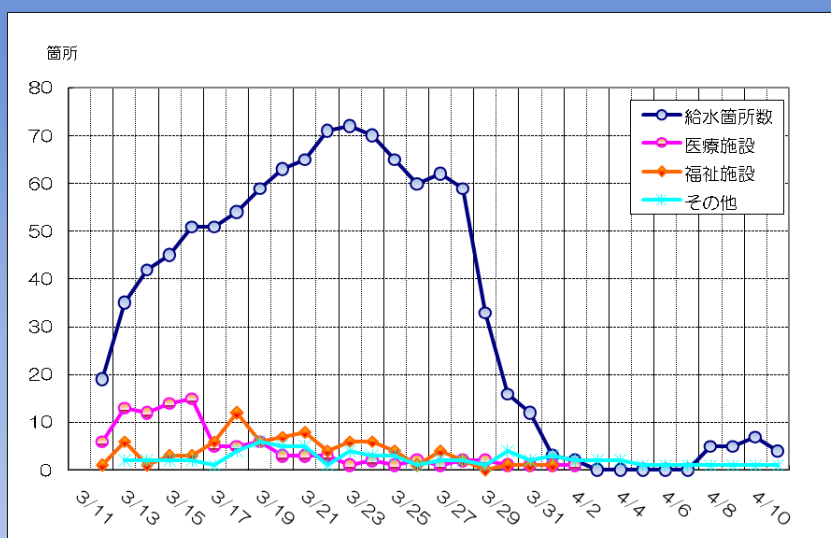
11日に非常用飲料水貯水槽(100 m<sup>3</sup>)を5箇所 (21箇所中)を立ち上げ、その後19箇所に拡大。また、新潟市から仮設水槽を30基借り、市所有の13基を加え43基を貯水槽のない避難所を中心に設置、さらに応急給水栓の立ち上げを行った。

## ③災害拠点医療機関への優先給水

災害時拠点医療病院に給水を優先して実施。また、透析医療機関などにも要請に応じて給水した。



## 給水活動場所等の推移



## 5. 応急復旧の体制

- 発生直後は局職員による調査を実施し、翌日から宮城県管工業協同組合から応援を頂き一日最大で33班の作業体制をとった。
- 3月18日から3月31日まで東京都の応援隊1班18名(修繕業者も含む)3月22日から4月5日まで札幌市の応援隊1班5名の応援を受けた。



## 復旧（修繕）状況



## 6. 水道の復旧 (まとめ)

○津波被害を受けた東部地区や地滑り地域など一部を除き、**3月29日**で給水がほぼ復旧した。

○4月7日の余震においては、停電による送水ポンプの停止に伴う中山吉成地区の断水や、配水支管での漏水が多発した南光台、鶴ヶ谷、岩切などの地区で減水など、一時的に約3万戸に断・減水が生じたが、これらについては**4月11日**までにほぼ復旧した。



## 福島原発による放射能問題

浄水発生上の放射能測定結果について (日経7.12更新)

仙台市水道局4浄水場の浄水発生上について、放射能測定を行いましたので、その結果をお知らせします。浄水発生上の放射能については、平成25年6月16日付け厚生労働省健康課長通達「放射性物質が検出された浄水発生上の放射能の取扱いに関する考え方」に基づき、適切に行っております。

●測定結果 (単位Bq/kg)

- 採取年月日 : 7月4日 (月)
- 測定分析機関 : (株) 環境分析センター

浄水場名	検体数	放射性ヨウ素 (I-131)	放射性セシウム (Cs-134)	放射性セシウム (Cs-137)
国見浄水場	1	不検出	不検出	不検出
中野浄水場	1	不検出	不検出	9.6
		不検出	17.0	18.0
福岡浄水場	3	不検出	0.4	7.6
		不検出	3.1	0
		不検出	2.4	0
茂庭浄水場	2	不検出	2.4	0
		不検出	4.3	0

(※1) 水道水について  
水道水については、5月23日より、毎週測定を行っていますが、検出限界値に達しない放射能の検出に関する暫定的な信頼性を大きくいただけます。詳しくは、「水道水の放射能測定結果について」をご覧ください。

(※2) 浄水発生上について  
浄水発生上とは、浄水場において、取水した原水から水道水をつくる(上澄)や浄水処理に用いられた薬品類などの放射能を指します。

水道水の放射能測定結果について (日経5.1更新)

仙台市水道局各浄水場の浄水(水道水)と、仙南・仙北広域水道受水(水道水)について、放射能を測定しました。結果は、いずれの取水場でも放射性ヨウ素、放射性セシウムは検出されませんでした。よって、仙台市の水道水は、安心してご利用いただけます。なお、今後も週1回、測定を行う予定です。

●測定結果 (単位Bq/kg)

- 採取年月日 : 8月21日 (水) 午前
- 測定分析機関 : 東北大学

取水場所	放射性ヨウ素	放射性セシウム
国見浄水場	不検出	不検出
中野浄水場	不検出	不検出
	不検出	不検出
福岡浄水場	3.0	2.0
	1.0	-

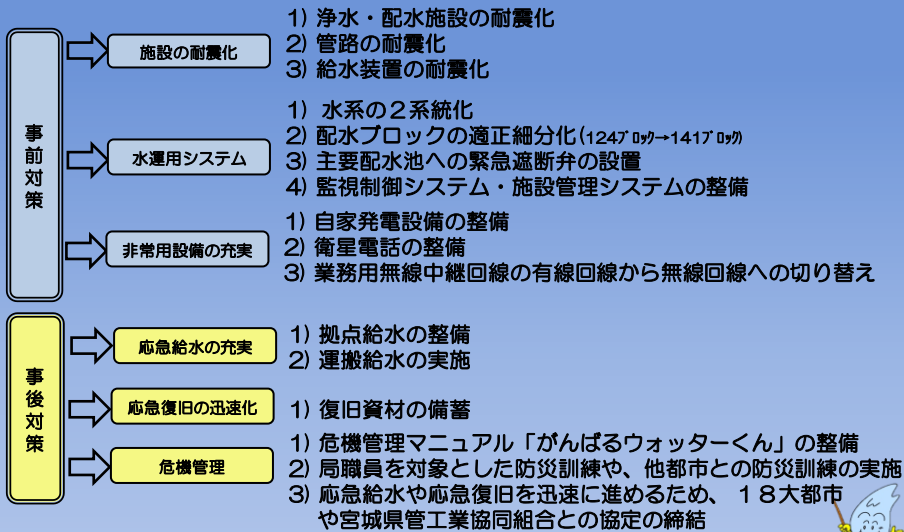
以上の放射能測定結果は、国見浄水場の結果をご覧ください。(中野浄水場の結果のため、国見浄水場を代表して測定しております)



ゲルマニウム半導体検出器



# 水道局の災害対策



## 評価と課題(1)

### ◎ 耐震化について

#### 浄水場等の施設について

耐震補強工事を進めてきたことで被害の軽減が図れた。

#### 管路について

耐震化が震災時の減災に有効に機能した。

今後、被害実態・地盤の強度などを考慮し、計画的に更新していく予定。

### ◎ 水運用システムについて

配水池への送水の二系統化や配水幹線を相互に連絡するなどのバックアップ施設を整備してきたことで断水期間の短くできた。

流量や圧力の監視データで被害や給水の状況を把握し、応急給水や早期復旧に有効に活用、ブロック化したエリアへの給水経路を変更するなど断水区域の縮小化を図れた。



## 評価と課題(2)

### ◎ 応急給水について

非常用飲料水貯水槽は津波で被災した箇所を除き有効に活用できたが、停電の長期化による燃料不足や、断水区域が広域であるため職員の配置ができないなど、使用できない給水施設があった。

今後は、使用できなかった給水施設の検証を行うとともに、町内会等との連携やボランティアの活用などを検討。

### ◎ 燃料等物資関係について

主要4浄水場においては、停電時間が最大98時間にわたるなど、非常用自家発電設備稼働継続のための燃料確保が困難を極めた。

燃料等の備蓄・確保について検討するとともに、油種の変更や燃料の節約方法についてあわせて検討する。



仙台市水道局

ご静聴ありがとうございました

仙台市水道局



仙台市水道局